

すきみみずく」2体を両脇の羽に入れた「親子みみずく」というものもあり、機会があればぜひ挑戦してみたいと思いました。

「すすきみみずく」を制作する作業そのものも楽しいですが、その由来をふまえてつくることで、伝説をなぞる楽しさも味わうことができました。また、歴史のある「すすきみみずく」の由来や制作法を継承していくことの意義を感じました。同時に、この体験を通じて、鬼子母神堂をはじめとし雑司が谷地域への関心が高まりました。「すすきみみずく」づくりによって、子どもから大人まで幅広い世代が楽しく地域のことを学ぶことができると思います。

(いずみや・さつき 立教大学大学院文学研究科日本文学専攻博士課程後期課程)

## 「すすきみみずく」づくりに参加して

笹川貴吏子

雑司が谷をテーマに行われた今年度の「池袋学」夏季特別講座では、地域内で行われている様々な取り組みを、実際に地域の方々から学ぶことで、雑司が谷について理解を深めることができました。本ワークショップにてご指導いただいた「雑司が谷すすきみみずく保存会」の方々も、地域の伝統工芸である「すすきみみずく」の継承活動を通じて、雑司が谷地区の地域づくりに取り組んでいます。「すすきみみずく」とは、その名のとおりすすきでつくられたみみずくの人形です。ふっくらした体とつぶらな瞳が愛らしく、私は以前から気になっていたもので、今回「すすきみみずく」づくりを体験することができ、とても嬉しかったです。

ワークショップは2時間程度で、アットホームな雰囲気の中で、みみずくの制作を行いました。最初は、すすきのふわふわした触り心地を楽しみながら、すすきを分ける作業に取り組みました。その時はまだ、おしゃべりを楽しむ余裕があったのですが、工程が進むにつれて徐々に集中しはじめ、気が付いたら無言で作業に没頭していました。途中、すすきを折り曲げたり、形を整えたり、片方の手だけで紐をくくったりする作業があったのですが、不器用な私には難しく、うまくできないこともありました。しかし、保存会の方々の丁寧なサポートのおかげで、なんとかワークショップの時間内に「すすきみみずく」を完成させることができました。

製作を終えて周りを見渡すと、他の参加者の作品も完成していました。痩せている子、太っている子、目が離れている子など、会場は個性豊かな「すすきみみずく」たちで賑や

かになっていました。私のみみずくは少し形がいびつでしたが、それでも自分なりになかなかかわいい子がつくれたと思いました。その子は今、職場に飾ってあります。

今回のワークショップでお世話になった「雑司が谷すすきみみずく保存会」の方々は、豊島区の小学校などでも「すすきみみずく」づくりの指導を行っています。別の会場では「すすきみみずく」づくりを体験した子どもたちの感想文や保存会の方々へのお礼の手紙を見ることができました。壁一面に貼られたたくさんのメッセージには、子どもたちの思いが溢れていました。手紙を目にした保存会の方々もとても嬉しそうでした。その様子を目にして、「すすきみみずく」が地域の人と人、世代、文化をつなぐ重要な役割を果たしていることを実感しました。「すすきみみずく」が雑司が谷の文化や歴史、魅力を伝える地域の宝として、これからも地域の人に愛される存在であってほしいと思いました。

(ささかわ・きりこ 立教大学大学院社会学研究科博士課程後期課程)